



伝統を支える

その始まりは明治23年まで遡り、今年で127回を数える伝統ある豊年踊で定評のある仲尾次区豊年祭に出かけました。長者の大王 若菜には、Sさん、Iさん、Zさんの3名の中学生が出演しました。3名は、若衆菊持にも出演し、日頃鍛えた琉舞を披露しました。新里直子琉舞道場からは、三線演奏や鳩動しなど、小さな子ども達も躍動しました。また、卒業生の高校生達も谷茶前などで華を添えていました。地元職員のS先生も現代劇の姉役で熱演し、平和踊りのぼたん役、松竹梅の梅役でも華麗な舞を披露していました。出演者の皆様、お疲れ様でした。地域者の伝統を支え、未来へ繋ぐ舞が見られた楽しい一時でした。



羽地中学校
学校だより 117号
せいりゅうおおかわ
H30.10.30



合唱コンクールに向けて Y.A
「虹」と「ヒカリ」の歌詞がすごく深く、それを考えると泣きそうになります。最後の合唱コンクールで思う事はたくさんあります。1年生の時からやってきて、すごく大変なあとと思うこともあったり、みんなやる達成感も味わったり、もう最後だと思つと少し寂しい気持ちにもなります。あと二週間を切つたと言つこと、焦る気持ちはありますが、3の1らしく最後の日まで頑張りたいです。校内合唱コンクールの後の地区音楽発表会では学年合唱もあると思うので、最後の最後まで頑張りたいです。合唱コンクール前の意気込み

合唱コンクール

